



腰痛を防ぐ

職場の 事例集

厚生労働省 中央労働災害防止協会

1. 事例集の使い方

この事例集では、小売、介護・看護の職場で腰への負担を減らした100以上の事例の成果、内容、きっかけをまとめたものです。

次の2. 事例集目次にあるタイトルから気になる事例を見つけ、事例を確認してください。

巻末には、参考情報もありますので、腰痛予防にお役立てください。

取組の成果

取組の内容

取組のきっかけ

介護・看護
1

ノーリフトケアを導入

高知県立あき総合病院
施設の種類：一般病院 従業員規模：100-999人

費用の目安
数十万円

成 果

腰への負担が軽減

内 容

- ・腰痛予防対策委員がノーリフトケアの動画を作成し、配信した。
- ・モデル病棟に対して、1回30分（全2回）の研修を実施した。
- ・ノーリフト宣言のポスターを作成、配布した。
- ・介助のときにベッドの高さを調整するようになり、前かがみ姿勢が軽減した。
- ・福祉用具（例：スライディングシート、スライディングボード）の使用頻度が増加し、職員が患者を持ち上げないようになった。

きっかけ

- ・腰痛を訴える職員が増加していたが、組織全体の取組はなかった。
- ・福祉用具はあるが、使用方法の理解不足から使用頻度が低かった。



費用の目安

数千円
数万円
数十万円
数百万円

注)ノーリフトケア／ノーリフティングケア：事例のタイトルや成果では、便宜上ノーリフトケアと表示している。

2. 事例集目次

介護・看護の職場

番号	カテゴリ	タイトル	施設の種類	従業員規模	費用の目安
1	ノーリフトケアの実践	ノーリフトケアを導入	一般病院	100-999人	数十万円
2		ノーリフトケアを宣言	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
3		ノーリフトケアのリーダーを養成	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
4		ノーリフトケアのリーダーを養成	地域医療支援病院、介護老人福祉施設ほか	1000人以上	数十万円
5		ノーリフトケアの委員会を設置	介護老人保健施設	50-99人	数百万円
6		ノーリフトケアの取組効果を検証	介護老人福祉施設	50-99人	数万円
7		ノーリフトケアの研修を開催	介護老人福祉施設	50-99人	数万円
8		ノーリフトケアの研修を開催	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
9		ノーリフトケアの実践を相互評価	介護老人福祉施設	50-99人	数万円
10		福祉用具の使用	スライディングボード・シートを使用	介護老人福祉施設	50-99人
11	スライディングボード・シートを使用		介護老人福祉施設	50-99人	数千円
12	スライディングボード・シートを使用		介護老人福祉施設	50-99人	数千円
13	使い捨てのスライディングシートを使用		一般病院	100-999人	数千円
14	臥位のまま移乗できるスライディングボードを使用		地域医療支援病院	100-999人	数万円
15		臥位のまま移乗できるスライディングボードを使用	一般病院	100-999人	数万円

2. 事例集目次

番号	カテゴリ	タイトル	施設の種類の	従業員規模	費用の目安
16	福祉用具の 使用	臥位のまま移乗できるスライディングボードを使用	介護老人福祉施設	50-99人	数万円
17		スライディンググローブを使用	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
18		スライディンググローブを使用	介護老人福祉施設	50-99人	数万円
19		体位変換用シーツを使用	介護老人保健施設	50-99人	数十万円
20		肘置き跳ね上げ機能付き車椅子を導入	介護老人福祉施設	50-99人	数万円
21		電動昇降ベッドを導入	住宅型有料老人ホーム、通所介護	50人未満	数十万円
22		電動昇降ベッドを導入	介護老人福祉施設	50人未満	数万円
23		スタンディングマシーンを導入	介護老人保健施設	50-99人	数十万円
24		居室にリフトを導入	介護老人福祉施設	100-999人	数十万円
25		浴室にリフトを導入	通所介護	50人未満	数万円
26		浴室にリフトを導入	介護老人福祉施設	50人未満	数十万円
27		リハビリテーション室にリフトを導入	一般病院	100-999人	数百万円
28		歩行リハビリテーションにリフトを導入	一般病院	100-999人	数十万円
29		MRI検査室にリフトを導入	一般病院	100-999人	数万円
30		リフトの導入にサブスクリプションサービスを活用	一般病院	100-999人	数十万円
31		特殊浴槽を導入	介護老人福祉施設	50-99人	数十万円
32	作業姿勢の 改善	排せつ介助時の作業姿勢を改善	介護老人福祉施設	50人未満	数万円
33		入浴介助時の作業姿勢を改善	介護老人福祉施設	50人未満	数千円
34		入浴介助時の作業姿勢を改善	介護老人福祉施設	100-999人	数万円
35		入浴介助時に小休止を導入	通所介護	50人未満	数千円
36		整容時の作業姿勢を改善	住宅型有料老人ホーム、通所介護	50人未満	数十万円

2. 事例集目次

番号	カテゴリ	タイトル	施設の種類の	従業員規模	費用の目安
37	作業姿勢の 改善	口腔ケア時の作業姿勢を改善	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
38		介助時の作業姿勢を改善	介護老人福祉施設	50-99人	数万円
39		洗濯物たたみ時の作業姿勢を改善	介護老人福祉施設	50人未満	数万円
40		清掃時の作業姿勢を改善	特定施設入居者生活介護	50人未満	数千円
41		清掃時の作業姿勢を改善	介護老人福祉施設	50人未満	数千円
42		清掃時の作業姿勢を改善	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
43		洗浄作業時の作業姿勢を改善	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
44		洗浄作業時の作業姿勢を改善	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
45	物品取り出し時の作業姿勢を改善	介護老人福祉施設	50人未満	数千円	
46	その他の 介護・看護 作業の改善	見守りセンサーを導入	介護老人福祉施設	50-99人	数万円
47		インカムを導入	介護老人福祉施設	50-99人	数万円
48		残存機能を活かした介助を提供	介護老人福祉施設	50人未満	数万円
49		残存機能を活かした介助を提供	通所介護	50人未満	数千円
50		残存機能を活かした介助を提供	通所介護	50人未満	数千円
51		残存機能を活かした介助を提供	住宅型有料老人ホーム、通所介護	50人未満	数万円
52		利用者の状態に合わせた介助を提供	特定施設入居者生活介護	50-99人	数千円
53		利用者の状態に合わせた介助を提供	特定施設入居者生活介護	50人未満	数十万円
54		利用者の状態に合わせた介助を提供	介護老人福祉施設	50人未満	数千円
55		利用者の状態に合わせた介助を提供	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
56		利用者の状態に合わせた介助を提供	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
57		利用者の状態に合わせた介助を提供	特定施設入居者生活介護	50人未満	数万円

2. 事例集目次

番号	カテゴリ	タイトル	施設の種類	従業員規模	費用の目安
58	その他の 介護・看護 作業の改善	利用者の生活リズムに合わせた介助を提供	特定施設入居者生活介護	50人未満	数万円
59		業務負担を把握	特定施設入居者生活介護	50人未満	数万円
60		業務負担を把握	通所介護	50人未満	数千円
61		業務負担を把握	通所介護	50人未満	数万円
62		業務負担を把握	特定施設入居者生活介護	50人未満	数万円
63	重量物取扱い 作業の改善	運搬作業に台車を使用	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
64		運搬作業に台車を使用	一般病院	100-999人	数千円
65		運搬作業に台車を使用	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
66		運搬作業に台車を使用	介護老人福祉施設	50人未満	数千円
67		持ち上げる動作を排除	一般病院	100-999人	数万円
68		持ち上げる動作を排除	住宅型有料老人ホーム、通所介護	50人未満	数千円
69		運搬作業を排除	介護老人福祉施設	50人未満	数万円
70	運搬作業を排除	一般病院	100-999人	数十万円	
71	健康管理	腰痛の程度を把握	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
72		腰痛の程度を把握	通所介護	50人未満	数万円
73		腰痛健康診断を実施	介護老人福祉施設	50-99人	数十万円
74		ラジオ体操を実施	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
75		腰痛予防体操を導入	一般病院	100-999人	数千円
76		腰痛予防体操を導入	通所介護	50人未満	数万円
77		ストレッチを導入	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
78		スクワットを導入	介護老人福祉施設	50-99人	数千円

2. 事例集目次

番号	カテゴリ	タイトル	施設の種類	従業員規模	費用の目安
79	教 育	福祉用具の使い方を教育	介護老人福祉施設	50-99人	数万円
80		福祉用具の使い方を教育	短期入所生活介護	50人未満	数万円
81		雇入れ時に介助方法を教育	住宅型有料老人ホーム、通所介護	50人未満	数千円
82		腰痛予防教育に中央労働災害防止協会の教材を使用	通所介護	50人未満	数千円
83	管理体制	ヒヤリハット事例を収集	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
84		ヒヤリハット事例を収集	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
85		ヒヤリハット事例を共有	介護老人保健施設	50-99人	数千円
86		職員参画で腰痛予防対策を決定	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
87		衛生委員会で腰痛予防対策を調査審議	介護老人福祉施設	50-99人	数千円
88		腰痛対策を検討する委員会を設置	一般病院	100-999人	数十万円
89		併設施設と合同で腰痛予防対策を実施	診療所	100-999人	数千円

ノーリフトケアを導入

費用の目安

数十万円

高知県立あき総合病院

施設の種類：一般病院 従業員規模：100-999人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・腰痛予防対策委員がノーリフトケアの動画を作成し、配信した。
- ・モデル病棟に対して、1回30分（全2回）の研修を実施した。
- ・ノーリフト宣言のポスターを作成、配布した。
- ・介助のときにベッドの高さを調整するようになり、前かがみ姿勢が軽減した。
- ・福祉用具（例：スライディングシート、スライディングボード）の使用頻度が増加し、職員が患者を持ち上げないようになった。

きっかけ

- ・腰痛を訴える職員が増加していたが、組織全体の取組はなかった。
- ・福祉用具はあるが、使用方法の理解不足から使用頻度が低かった。



ノーリフトケアを宣言

費用の目安

数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザやまだ荘

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

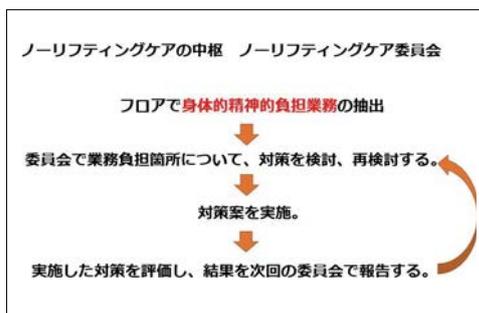
- ・取組後1年で、業務上の腰痛発生件数が2件から0件、慢性的に腰痛を訴える職員が8割減少
- ・職場改善への意識が向上

内容

- ・全職員が集まる職員会で、施設長が「労働安全衛生のためのノーリフティングケアを行う」ことを宣言し、自身の身体負担を減らし、働きやすく環境を変えるという考え方、取組の目的や内容を説明した。
- ・身体負担がなく楽に働くことができるように、事業所内のリスクを毎月ピックアップし、委員会で対策を考えるようにした。また、その結果がどうなったかを翌月の委員会で評価し、次の課題解決につながるように、PDCAサイクルを構築した。
- ・全職員に自分たちの体を守る理由でノーリフティングケアを行うことが理解され、身体への負担がかかる職場環境の改善に職員の意識が向くようになった。

きっかけ

- ・業務上での腰痛が2件あり、普段から慢性的に腰痛を訴える職員も多く、同一法人内の特養施設の中で、最もノーリフティングケアの取組が遅れていた。
- ・職員はノーリフティングケアという言葉は知っていても、何を目的として行うのかが理解できていない状態で、組織としての取組目標もなかった。



ノーリフトケアのリーダーを養成

費用の目安

数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザやまだ荘

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

- ・ 職員、利用者ともに身体負荷が軽減
- ・ 職員は腰痛予防や働きがいが向上、利用者は身体機能が改善

内容

- ・ 高知県の事業であるノーリフトのマネジメント養成研修を活用し、介護のリーダーすべてが受講及び課題をクリアし、ノーリフトマイスターとして認定を受けた。また、同事業の技術リーダー養成研修も受講し、リーダーがノーリフトに関するマネジメントだけでなく、技術指導もできるようにした。
- ・ 高知県の研修の受講によりノーリフトケアに取り組む目的を各リーダーに教育することができ、ノーリフトに関するマネジメントが継続できるようになった。
- ・ リーダーから一般職員への指導も円滑に行えており、介護機器や用具を使うだけでなく、なぜノーリフトケアが必要なのかを述べることもできるようになった。
- ・ 組織としてノーリフトケアの推進が図られたので、全職員の意識が「利用者にも働く人にも優しいケア」を提供する自覚が芽生えた。

きっかけ

- ・ 職員のノーリフトケアの理解が十分ではなく、組織的なマネジメントとして稼働できていなかった。
- ・ 機器や用具を扱えるリーダー育成はもとより、ノーリフトケアをマネジメント（ケアの質や業務効率を改善）できるリーダーの養成が必要だった。

ノーリフトケアのリーダーを養成

費用の目安

数十万円

社会医療法人財団董仙会

施設の種類：地域医療支援病院、介護老人福祉施設ほか 従業員規模：1000人以上

成果

- ・ 腰痛を理由とする離職者がゼロ
- ・ ノーリフトケアの取組を知った求職者が応募

内容

- ・ 医療・介護では、職員が腰痛を起こしやすい場面（例：ベッドからの移乗、排せつ介助、入浴介助）が多いことから、健康経営の課題に腰痛予防を挙げて取り組んだ。
- ・ 董仙会介護部門が介護福祉士にノーリフトマイスター研修を実施し、ノーリフトを推進する職場のリーダーを養成した。
- ・ マイスターによる指導により、職員の意識が機器を使用せずに早く済ませようという意識から機器を使用して安全に行おうという意識に変わった。
- ・ ノーリフトに取り組んでいることを把握している求職者からの応募があった。

きっかけ

- ・ 董仙会は、医療、介護、福祉および保健に関するサービスを提供しており、基本理念に「職員の健康と幸せ」を掲げ、健康経営に取り組み、2018～2023年は健康経営優良法人（ホワイト500企業）に認定されてきた。
- ・ 腰痛による病欠者が出たことをきっかけに、離職防止や採用面にも寄与する取組として、トップが決断して実施することになった。



機器を使用して安全に行おうという意識が芽生えた

ノーリフトケアの委員会を設置

費用の目安
数百万円

医療法人仁智会 介護老人保健施設ヘルシーケアなはり

施設の種類：介護老人保健施設 従業員規模：50-99人

成 果

- ・ノーリフトケアが促進
- ・利用者の身体機能が改善

内 容

- ・労働安全衛生の一環としてノーリフトケアに取り組むことにし、施設長をトップに、事務職、医療職、介護職の横断的なメンバーで構成した委員会を発足した。
- ・①職員の健康管理部、②アセスメント・プランニング部、③福祉用具導入・管理部、④ケア以外の業務部、⑤教育企画・技術教育部の5つの部会を立ち上げた。
- ・各部会では、6カ月間ごとに計画を策定し、月1回、進捗報告と検討議題を議論するようにした。
- ・委員会では、就労環境調査を実施したり、福祉機器を導入したり、教育方法の検討を行った。また、福祉機器や福祉用具の導入に併せて、全職員に対してノーリフトケアの意義や身体の使い方、福祉機器や福祉用具の使い方を教育した。
- ・利用者の褥瘡（床擦れ）や拘縮の予防につながった。

きっかけ

- ・職員の腰痛と疲労が問題となっていた。さらに、少子高齢化、地域の過疎化により、退職者に対し入職者が少なく、10年後の人員不足の課題も抱えていた。その課題から、社会福祉の職場の「きつい、汚い、暗い」というイメージではなく、魅力ある、働きがいを感じる職場をみんなで作っていくという機運を高めていくことが必要と考えた。



床走行式リフト



体位変換用シート

ノーリフトケアの取組効果を検証

費用の目安
数万円

社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザ高知

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成 果

- ・ノーリフトケアが促進
- ・時間にゆとりが生まれ、無理のない介助が実現

内 容

- ・ノーリフティングケアの取組当初から組織の中にノーリフティング委員会を設置し、施設全体で取り組んできた。年に2回、腰痛アンケートを実施し、その集計結果と改善すべき業務の内容をノーリフティング委員会で話し合うようにした。
- ・衛生委員会でも腰痛を訴える職員数やその変化を確認し、取組の効果を検証するようにした。
- ・ノーリフティング委員会の活動の結果、主任やリーダー以外の職員にノーリフティングケアに関する知識や技術を習得する機会を十分確保できていないとの分析結果から、ノーリフティングケアの必要性や福祉用具の使用方法を共有する週1回の研修会を開催することにし、研修会の内容も委員会で話し合うようにした。
- ・福祉用具の活用により、二人介助が一人介助になった。

きっかけ

- ・ノーリフティングケアの実践により、単に腰痛予防対策の効果の有無だけではなく、実際に腰痛発症率が低下したか、腰痛による離職者が減少したか、入職者の増加があったか、介護職場の「きつい、汚い、暗い」というイメージの払拭に役立ったかを検証し、快適な職場環境の醸成、人材確保に資する取組につながったかを確認しておく必要性があった。

腰痛発症の有無	腰痛	痛感	備考
1. 腰痛はありませんか？ <input type="checkbox"/> 常に無い、またはよく発症する <input type="checkbox"/> 時々発症する <input type="checkbox"/> 痛みがひどい <input type="checkbox"/> 痛みがひどい（腰の硬直性） <input type="checkbox"/> 痛みがひどい（腰の硬直性） <input type="checkbox"/> 痛みがひどい（腰の硬直性） <input type="checkbox"/> 痛みがひどい（腰の硬直性）	2. 腰痛に悩まされていますか？ <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> はい	3. 腰痛はひどいですか？ <input type="checkbox"/> とてもひどい <input type="checkbox"/> かなりひどい <input type="checkbox"/> ややひどい <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> ほとんどない	4. 腰痛の原因はありますか？ <input type="checkbox"/> 長時間の立ち仕事 <input type="checkbox"/> 長時間の歩行 <input type="checkbox"/> 長時間の立ち仕事 <input type="checkbox"/> 長時間の歩行 <input type="checkbox"/> 長時間の立ち仕事 <input type="checkbox"/> 長時間の歩行

腰痛アンケート(見本)

ノーリフトケアの研修を開催

費用の目安

数万円

社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザ高知

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

- ・ノーリフトケアが定着
- ・腰痛を原因とした離職率が低下

内容

- ・ノーリフティング委員会メンバーが、週1回水曜日勤務時間内の1時間に、ノーリフトケアの技術研修や福祉機器の使用方法に関する情報共有や技術練習を行う研修会を開催することにした。
- ・各フロアから必ず1名（勤務表に記載。都合が付けば他の職員も参加）は参加するようにし、職員会で全職員に内容を周知した。
- ・研修会では、現場で起きている直近の課題や問題も情報共有するようにした。
- ・現場の課題に対して具体的な対応案を提案でき、解決できるようになった。

きっかけ

- ・ノーリフトケアを施設で導入後、主任やリーダー以外の職員は、作業姿勢への意識や福祉用具を使用したケアが実施できていなかった。
- ・ケアプランでケア内容を決めていても、福祉用具に慣れていない職員は今までどおりの方法で実施してしまい、職員によってケア方法が異なることがあった。
- ・月1回開催するノーリフティング委員会での情報共有や研修だけでは頻度が少なく、職員がノーリフトケアに関する知識や技術を習得する機会が十分ではなかった。



福祉用具を使用したケアの実践練習



職員会で全職員に伝達

ノーリフトケアの研修を開催

費用の目安

数千円

社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会 特別養護老人ホームあざみの里

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

- ・ノーリフトケアが定着
- ・人材育成の体制が整備

内容

- ・誰が見ても分かりやすい写真入りのマニュアルを作成し、新人職員研修で目的や効果、介助するときの身体の使い方、不良姿勢をなくすことを教え、研修後は認定テストを実施した。
- ・各職員のリフトの使い方や介助技術を確認し、個別指導を実施した。
- ・目的を認識してもらうことで、自身の身体の使い方から決められた用具の使用、利用者への触れ方も理解しやすくなり、統一した介助方法を職員が実践できるようになった。
- ・福祉用具を使用することで、職員の性別や年齢に関らず同様の移乗介助を行えるようになった。

きっかけ

- ・全職員が目的を理解できていることが大事であるが、「ノーリフティングケアを知識として理解できている」と答えた職員は100%であったにもかかわらず、全職員が「実践できている」という状況ではないことがアンケート結果から分かった。また、実践できていない原因として、福祉用具の使い方に自信がないのではないかと考えた。



マニュアル中の1コマ(抜粋)

- 搬送洗浄等の作業を行う際に、中腰姿勢になっていませんか？
- 椅子を使用したまま腰を抱った姿勢で介助していませんか？
- 利用者の体勢に入る位置に入り、安んじた声掛けで介助できていますか？
- 全て職員のベースで介助を行っていますか？利用者のできることを促せていますか？

ノーリフトケアの実践を相互評価

費用の目安
数万円

社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会 特別養護老人ホームあざみの里

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

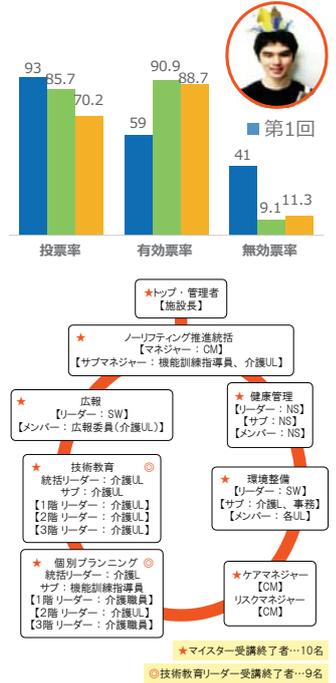
- ・ノーリフトケアが定着
- ・多職種で協力し合える関係性が実現

内容

- ・ノーリフティングケア推進チームを施設長、機能訓練指導員、介護職員、ケアマネジャー、生活相談員、看護師、事務職員と多職種で構成した。必要なライセンスを取得し指導できる職員を増やしていくことで、多職種間で同様の知識や技術を持ち、認め合える職場づくりを目指した。
- ・一緒にケアを行っている職員から、どの職員がノーリフティングケアを理解し実践できているか理由も含め投票を行う総選挙を実施し、職種に関らず全員が取組の当事者であることを認識できるようにした。
- ・楽しみながら褒める、褒められることで意欲・向上心アップにつながるというよい効果もたらされた。ノーリフティングケアだけでなく、他の取組・業務においても多職種で協力し合える関係性ができた。

きっかけ

- ・研修受講後、どのように職場に落とし込んでいくか、研修で得たものを現場で活かすにはやっていることが正しいだと周囲から認められることが必要ではないか、職員が楽しみながら投票できるような「今日のMVP」を投票すればどのようなことができるようになっていくかも把握できるのではないかと思い実行した。



スライディングボード・シートを使用

費用の目安
数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザやまだ荘

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・福祉用具（例：スライディングボード、スライディングシート、スリングシート）の置き場所を指定し、使い終わると必ずその場所に返すようにした。
- ・ケアプランの内容に、これらの福祉用具の使用を盛り込んだ。
- ・福祉用具の使用が習慣化され、使用率が向上した。

きっかけ

- ・福祉用具を使用するときに、どこにあるか分からず、探す手間がかかり、結局使わなくなっていた。



福祉用具の置き場所を指定

スライディングボード・シートを使用

費用の目安
数千円

社会福祉法人吹上苑 特別養護老人ホーム やすらぎの家

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

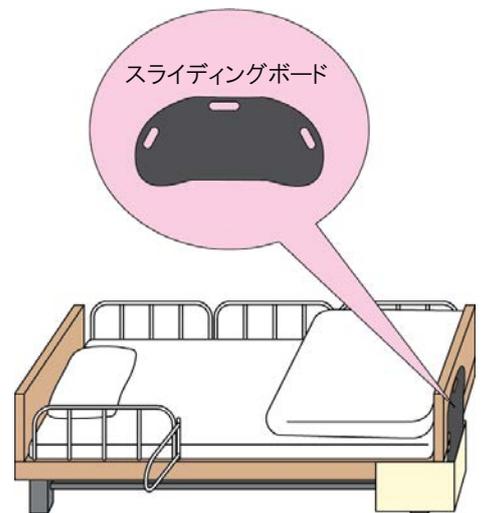
腰への負担が軽減

内容

- ・スライディングボードを使用する利用者の近くに配置し、適宜使用できるようにした。
- ・スライディングボードが目につきやすくなったことで、スライディングボードを使用して移乗する必要がある利用者を職員が認知できるようになった。
- ・ベッドから離れて収納場所等に取りに行く必要がないので、スライディングボードの使用が日常化し、使用率が向上するとともに、人力で抱え上げる介助の回数が減った。

きっかけ

- ・スライディングボードを使用するときは、フロアごとの置き場まで取りに行く必要があったため、使用率が低かった。



利用者の近くにスライディングボードを配置

スライディングボード・シートを使用

費用の目安
数千円

社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会
特別養護老人ホームあざみの里

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・スライディングボードを含む福祉用具を充実させ、定位置に配置した。
- ・移乗や体位変換を行うときに福祉用具を使用するようになった。
- ・5S（整理、整頓、清潔、清掃、しつけ）の視点から、決められた場所に戻すことによる業務の効率化、ケアスペースの確保、居室環境整備、環境整備にも取り組むようになった。

きっかけ

- ・スライディングボードを含む福祉用具が不足し、使用しないことがあった。



使い捨てのスライディングシートを使用

費用の目安
数千円

高知県立あき総合病院

施設の種類：一般病院 従業員規模：100-999人

成果

腰への負担が軽減

内容

- 急性期病棟で使い捨てのスライディングシートを活用するようにした。個人用に患者のベッドサイドに配置するようにした。
- ベッド上で患者を移動するときや体位変換をするときに、この使い捨てのスライディングシートを使用することで、患者を抱え上げずに介助できるようになった。

きっかけ

- 急性期病棟は介助量が多い患者が多く、腰への負担が大きかった。
- コロナ禍で福祉用具の使い回しができず、スライディングシートの使用頻度が低かった。



患者のベッドサイドに使い捨てのスライディングシートを配置



スライディングシートの代わりに使い捨てのスライディングシートを利用

臥位のまま移乗できるスライディングボードを使用

費用の目安
数万円

社会医療法人近森会 近森病院

施設の種類：地域医療支援病院 従業員規模：100-999人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ベッドとストレッチャー間の移乗介助に臥位のまま移乗できるスライディングボードを導入した。
- 院内の作業療法士が各部所で使用方法を指導した。
- スライディングボードを使用することで、患者を持ち上げずに移乗介助ができるようになった。

きっかけ

- 患者をベッドとストレッチャー間で移乗するときに、介助した職員がけがをする事例があった。
- 移乗介助のときは数人で待ち上げているが、介助する職員の腰への負担が大きかった。



臥位のまま移乗できるスライディングボードを使用

費用の目安
数万円

医療法人須崎会 高陵病院

施設の種類：一般病院 従業員規模：100-999人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・ベッドから車椅子への移乗に使用していたスライディングボード、スライディングシートを、身長程度の長さがあるウレタンフォーム製の取っ手付き移乗用ボードに変更した。
- ・患者を側臥位にするだけで移乗用ボードを敷き込むことができ、患者を仰臥位のままスライドさせてベッドから車椅子に移乗させられるようになった。また、移乗後も移乗用ボードが車椅子の形に沿って変形し、抜き取らずにそのまま車椅子を利用できるようになった。

きっかけ

- ・ベッドから車椅子への移乗のときに、スライディングボードやスライディングシートを使用していたが、用具の準備や移乗後の用具の抜き取りといった手順を嫌って、これらの用具を用いずに移乗させることがあった。
- ・現場からも移乗手順の簡略化の要望が出ていた。



取っ手付き移乗用ボード



臥位のまま移乗できるスライディングボードを使用

費用の目安
数万円

社会福祉法人緑峰会 特別養護老人ホーム グリーンライフ

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・利用者を機械浴用のストレッチャーからストレッチャーに移乗するときに、身長程度の長さがあり、臥位のまま移乗できるスライディングボードを導入した。
- ・このスライディングボードを導入した結果、移乗のときに利用者を抱え上げなくなった。
- ・導入後は、「このスライディングボードなしでの介護はあり得ない」という声が聞かれるほど移乗介助が楽に行えるようになった。また、移乗のときに利用者の皮膚の擦傷がなくなった。

きっかけ

- ・皮膚が弱い利用者が、機械浴用のストレッチャーからストレッチャーに移乗するときに擦傷したことがあった。



臥位のまま移乗できる
スライディングボード



移乗のときに利用者を
抱え上げなくなった

スライディンググローブを使用

費用の目安

数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザ高知

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・ケアに携わる全職員に、外側が身体の下に差し込みやすい低摩擦素材、内側が作業しやすいよう滑りにくい素材でできた体位変換用のグローブを購入し、各職員に配布した。
- ・体位変換用のグローブを常に携帯できるようウエストポーチを配布し、着用させるようにした。
- ・利用者の座位姿勢の修正や体位変換で、体位変換用のグローブの使用が定着した。

きっかけ

- ・体位変換用のグローブの使用方法は知っていたが、各職員がすぐに使える状態ではなく、ステーションの棚に置いたままになっていた。



グローブ携帯用のウエストポーチ

スライディンググローブを使用

費用の目安

数万円

社会福祉法人土佐香美福祉会
特別養護老人ホームウエルプラザやまだ荘

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・ウエストポーチと除圧や姿勢修正に必要なスライディンググローブを介護職員に配布した。
- ・業務中は必ずウエストポーチを装着し、スライディンググローブや社内PHS、筆記用具など必要なものを入れるようにした。
- ・ケアプランに除圧や姿勢修正が必要な利用者には、スライディンググローブを必ず使用することを盛り込んだ。
- ・介助でスライディンググローブを使用するようになった。

きっかけ

- ・ノーリフティングケアを導入した初期に、用具や道具を導入しても使わない、使い方を習熟しても使わないことがあった。
- ・社内PHSやボールペンをよく落としており、破損が多かった。名札を首からぶら下げ、介助するときに利用者に当たることがあった。



配布したウエストポーチにスライディンググローブを入れている

体位変換用シートを使用

費用の目安

数十万円

医療法人仁智会 介護老人保健施設ヘルシーケアなはり

施設の種類：介護老人保健施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・介助の都度スライディングシートを敷きこむことなく体位変換を容易に行えるよう開発された、滑り面をもち、付属品の環状のひもを活用してリフトで持ち上げられるようになっている2枚組の体位変換用のシートを導入した。
- ・利用者の状態に応じて、シートを活用した体位変換とノーリフトケアを夜勤時間帯を含めて提供できるようになった。
- ・従来のやり方を見直し、多職種の職員の協力を得て、視覚で理解できるマニュアルを作成して、現場に貼ったり、定期的に研修を行うとともに、チームとしてケアにあたる体制づくりを行った。
- ・褥瘡予防に効果があった（筋緊張が緩和した人は19人中8人。8人のうち褥瘡発生者は0人）。また、長期療養者の姿勢や身体のゆがみが改善され、利用者自身の健康促進、心理的な安定にも効果があった。
- ・導入した体位変換用のシートは職員にとって介護に欠かせない用具になり、誰が行っても同じケアができる体制になった。また、夜勤時間帯も苦にならず、一人で介助ができるようになった。

きっかけ

- ・活動制限がある高齢者は、拘縮^{こくしやく}や身体のゆがみから骨突出部が多く、褥瘡^{ぶくそう}（床擦れ）が発生すると改善しにくく、再発もあった。また、拘縮や身体のゆがみを改善、予防することが重要だと考えた。
- ・夜勤時間帯に一人で行う拘縮がある重度者の体位変換や排せつ介助は、職員の負担が大きかった。



体位変換の様子



おむつ交換の様子

肘置き跳ね上げ機能付き車椅子を導入

費用の目安

数万円

社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザ高知

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

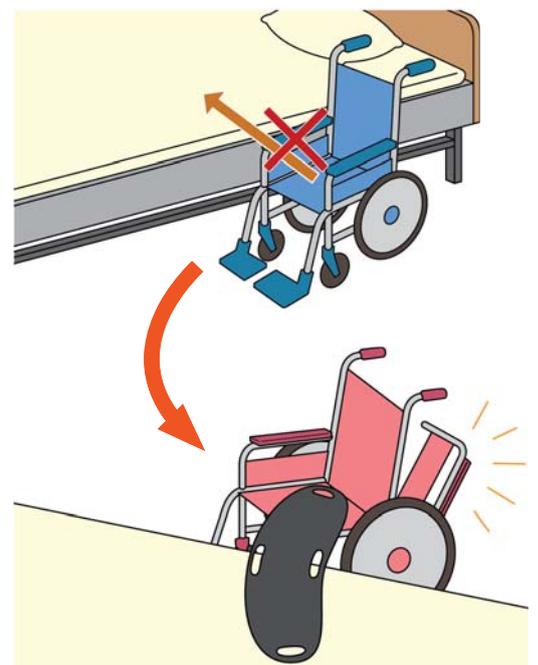
腰への負担が軽減

内容

- ・高知県の助成金を活用し、必要な台数の肘置き跳ね上げ機能付き車椅子やスライディングボードを導入した。
- ・スライディングボードを含む福祉用具を使用する利用者をカンファレンスで決め、計画書に明記した。
- ・スライディングボードを含む福祉用具は、使用する利用者の居室に置くようにし、併用している場合は移動式テーブルの上に置くようにした。

きっかけ

- ・ベッドと車椅子間の移乗時にスライディングボードを使用したいが、肘置き跳ね上げ機能付き車椅子やスライディングボードが少なく、利用者に使用できないことがあった。



電動昇降ベッドを導入

費用の目安
数十万円

株式会社たつみ 柿の木坂有料老人ホーム
デイサービス柿の木坂

施設の種類：住宅型有料老人ホーム、通所介護
従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・電動昇降ベッドを導入した。
- ・介助する前に、ベッドの高さを調節するようになり、職員が前かがみにならずに介助ができるようになった。

きっかけ

- ・電動昇降ベッドの数が限られており、おむつ交換を含むベッド上の介助で前かがみになり腰に負担がかかっていた。

改善前



前かがみで腰に負担がかかる

改善後



電動昇降ベッド導入で、前かがみにならずに介護が可能に

電動昇降ベッドを導入

費用の目安
数万円

社会福祉法人小鳩会 特別養護老人ホーム小鳩園

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・電動昇降ベッドを導入する資金がなかったが、他法人から古い電動昇降ベッドを譲り受けた。
- ・ベッドの高さを調整してから、おむつ交換などを前かがみにならずに行えるようになった。
- ・利用者が立ち上がりやすい高さに調節できることで、利用者が起きて食事できるようになり、残存機能を発揮できるようになった。
- ・スライディングボード、床走行式リフト、スライディングシート、肘置き跳ね上げ機能付きの車椅子と電動昇降ベッドを組み合わせた移乗介助が行えるようになった。

きっかけ

- ・ハンドルを回して高さを調節するベッドだったので、面倒なベッドの高さ調節をせず不適切な高さのまま移乗介助を行っていた。その結果、利用者の残存機能を活用できず、利用者を起こさずにベッド上で食事をさせることも多かった。おむつ交換のときも高さ調節せずに行うことで前かがみ姿勢になっていた。

改善前



改善後



譲り受けた電動昇降ベッドを活用

スタンディングマシーンを導入

費用の目安
数十万円

医療法人仁智会 介護老人保健施設ヘルシーケアなはり

施設の種類：介護老人保健施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・立位保持できる利用者の場合、スタンディングマシンを活用してトイレまで移動することにした。
- ・スタンディングマシンの導入に伴い、トイレ介助は、職員1人で対応するようになった。
- ・施設内での介助歩行も楽になり、介助時間も短くなった。その時間を他の業務に充てる時間として捻出でき、職員の余裕にもつながった。

きっかけ

- ・将来の人手不足の予測から現在のトイレ介助、入浴介助に関わる時間と職員人数を改善することが課題と認識していた。高知県の試行的モデル事業に参画し、簡易スタンディングマシンを活用した介助方法をトイレ介助や入浴介助に導入して取り組む機会があった。事業が終了しても、引き続き活用したいと職員から強い申し出があった。



スタンディングマシンを活用

居室にリフトを導入

費用の目安
数十万円

社会福祉法人横浜博萌会 特別養護老人ホーム しらゆり園

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：100-999人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・座位を保持できない利用者の居室に、据置型介護リフトを導入し、移乗介助に利用した。
- ・移乗介助で人力による抱え上げの必要がなくなった。
- ・職員の体格や筋力に関係なく同じように介助できるので、利用者を安全に移乗できるようになった。

きっかけ

- ・座位を保持できない利用者が入所することになった。
- ・車椅子からベッドへの移乗のときに人力で抱え上げなくてはいけなくなり、腰に負担がかかることが予想された。



据置型介護リフト

浴室にリフトを導入

費用の目安

数万円

株式会社リハビリコンパス
地域リハビリケアセンター こんばす春日部

施設の種類：通所介護 従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・立位保持困難な利用者向けに、入浴介助用リフトを導入した。
- ・利用者を人力で抱え上げることがなくなった。

きっかけ

- ・立位保持が困難な利用者の入浴介助で、人力で抱え上げる介助があり、腰に負担がかかっていた。



入浴介助用リフト

浴室にリフトを導入

費用の目安

数十万円

社会福祉法人小鳩会 特別養護老人ホーム小鳩園

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50人未満

成果

78%だった離職率が13%に低下

内容

- ・1階および2階の浴室を改修し、移乗用リフトと個浴を設置した。
- ・リフトの使い方について集合研修を行った。また、全員が研修に参加できるよう、小鳩会他施設の介護職員に応援に来てもらい、小鳩園の職員の代わりに、フロアの見守りをしてもらった。
- ・小鳩園に出向していたリフト使用歴20年の介護職員がOJTを実施した。職員のモチベーションを高めるよう、小鳩会他施設に依頼し、OJTに職員を派遣してもらった。
- ・リフトの使い方の復習として動画共有Webサイトを案内し、視聴できるようにした。これらの取組もあり、職員全員が2カ月間でリフトの使い方を習得した。
- ・個浴のリフトを使用した介助で、利用者を人力で抱え上げる必要がなくなり、1人でいえるようになった。
- ・全体の8割の利用者はリフトで入浴し、2割はまたいで入れるようになった。風呂嫌いな利用者が風呂好きになったと言って喜んでいる姿を見て、職員が仕事で充実感が持てるようになった。

きっかけ

- ・1階の浴室では職員2人で利用者をストレッチャーに移乗する必要があり、平均年齢50歳台の職員にとって重労働であった。また、2階の浴室は、車椅子の利用者が浴槽に入ることができず、利用者からは「ここの職員はお湯に入れてくれない」と言われていた。
- ・リフトを積極的に活用している他法人の施設へ見学に行った。



改善前



改善後



移乗用リフトを設置

リハビリテーション室にリフトを導入

費用の目安
数百万円

医療法人恕泉会 リハビリテーション病院すこやかな杜

施設の種類：一般病院 従業員規模：100-999人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・リハビリテーション室に、天井走行式リフトを設置した。
- ・天井走行式リフトを使用することで、妊娠中や体格の小さい職員、経験の浅い職員も患者を抱え上げたり、支えたりすることなく、立ち上がり、立位保持や歩行のリハビリテーションを実施できるようになった。
- ・患者の身体機能回復、自立に向けた支援サービスの質が向上した。

きっかけ

- ・身体を支える機能が低くても、回復過程で立ち上がり、立位保持や歩行のリハビリテーションを必要とする患者が多く、職員は患者の身体を抱えることで支えて実施していた。
- ・リハビリテーションを行う専門の職員にも腰痛を訴える者は多く、妊娠中や体調不良の職員は、患者の身体機能を回復させる実践的な支援を提供することが困難であった。



設置した天井走行式リフト

歩行リハビリテーションにリフトを導入

費用の目安
数十万円

社会医療法人近森会 近森リハビリテーション病院

施設の種類：一般病院 従業員規模：100-999人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・歩行中の患者の下肢にかかる体重を軽減するリフトを導入し、歩行の補助を行うようにした。
- ・歩行能力を補助するロボットを導入し、歩行の補助を行うようにした。
- ・職員が患者を支えずに、歩行リハビリテーションを行えるようになった。

きっかけ

- ・脳卒中患者の歩行リハビリテーションは、まひが重度であっても早期から全介助で行うことが理想だが、患者と職員との体格差がある場合や体重の重い患者の場合には、患者を支える職員の腰に大きな負担がかかるケースが多く、負担軽減が望まれていた。



MRI検査室にリフトを導入

費用の目安
数万円

医療法人治久会 もみのき病院

施設の種類：一般病院 従業員規模：100-999人

成果

腰への負担が減少

内容

- ・MRI検査室専用のリフトをリース（メンテナンス込み）で導入し、車椅子を使用している患者を検査用ベッドに移乗するときに使用するようにした。リースでありスリングシートの種類の見直しが可能で、操作ミスによる故障に対しての不安が少ないことから積極的に活用することができるようになった。
- ・患者に対して安全で安心な対応ができるようになった。
- ・夜間救急時の移乗介助を職員1人で行えるようになった。

きっかけ

- ・MRI検査のときの検査用のベッドへの移乗介助において、ストレッチャーを使用している患者は横移動で良いが、車椅子を使用している患者に対しては複数人での抱上げとなり、職員の腰に負担がかかっていた。
- ・夜間救急のMRI検査のときは、職員が1人であり、他部署に協力を依頼する必要があった。



MRI検査室専用のリフトを導入

リフトの導入にサブスクリプションサービスを活用

費用の目安
数十万円

医療法人須崎会 高陵病院

施設の種類：一般病院 従業員規模：100-999人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・サブスクリプションサービス（定額料金で一定期間、商品を利用できるサービス）を活用して、床走行式リフトやスリングシートを導入した。
- ・実際の介助で床走行式リフトを使用しながら、職員に使用方法を教育した。
- ・人力で利用者を抱え上げずに離床させることができるようになった。
- ・体格がよい患者や、拘縮がある患者でも離床を行えるようになり、身体機能面の改善効果や褥瘡（床擦れ）の予防にもつながった。

きっかけ

- ・抱え上げが難しい患者への対応に苦慮しており、事故につながってしまったケースも見られ、対策が必要だった。
- ・リフトの有効性は知っていたが、コスト面や事故への不安から導入につながらなかった。



リフト使用風景

特殊浴槽を導入

費用の目安
数十万円

社会福祉法人吹上苑 特別養護老人ホーム やすらぎの家

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・特殊浴槽を導入し、一人では座位が保てない利用者にはストレッチャー浴を使用し、座位を保てる利用者にはチェア浴を使用することにした。
- ・利用者の身体機能に合わせた特殊浴槽の使用により、人力で抱え上げる介助の回数が減った。

きっかけ

- ・立位や座位を保てない利用者への入浴介助のときに、人力で抱え上げながら体を洗う必要があり、腰への負担が大きかった。



排せつ介助時の作業姿勢を改善

費用の目安
数万円

社会福祉法人なごみの杜
特別養護老人ホーム 菜の花館本町通り

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・壁の届きやすい位置に棚を設置し、トイレ介助に必要な物品を収納した。
- ・トイレ介助のときに、職員が立ったまま物品を取れるようになった。

きっかけ

- ・トイレ介助のときに、おむつを含む物品をとるために前かがみやねじる姿勢をとってしまい、腰に負担がかかっていた。

改善前



改善後



立ったまま物品が取れる

入浴介助時の作業姿勢を改善

費用の目安

数千円

社会福祉法人なごみの社
特別養護老人ホーム 菜の花館本町通り

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50人未満

成 果

腰への負担が軽減

内 容

- ・職員が前かがみにならずに届く位置に、シャンプーを入れるソープディスペンサーを設置した。
- ・利用者を洗髪するときに職員が前かがみにならずにシャンプーを取れるようになった。

きっかけ

- ・利用者を洗髪するとき、遠くのシャンプーボトルを取るために前かがみになり、腰に負担がかかっていた。



入浴介助時の作業姿勢を改善

費用の目安

数万円

社会福祉法人横浜博萌会 特別養護老人ホーム しらゆり園

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：100-999人

成 果

介助時の動作が安定

内 容

- ・職員に滑り止め付きサンダルを支給した。
- ・職員が浴室内で滑り止めサンダルを使用するようになり、滑りを防止し、安全に動けるようになった。

きっかけ

- ・デイサービス部門では入浴介助業務が立て込み、職員が複数の利用者を同時に介助する必要があり、床面が濡れていることがある浴室内での移動が多かった。このため、普通のサンダルでは滑り、転ばないようにこらえるときに、腰などに無理な力がかかることがあった。



入浴介助時に小休止を導入

費用の目安
数千円

株式会社リハビリコンパス
地域リハビリケアセンター こんばす春日部
施設の種類：通所介護 従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・利用者1人の入浴介助終了後、次の利用者の入浴介助までの間に、熱中症対策として習慣化していた補水に合わせて腰を反らしたり、小休止をとったりした。
- ・入浴介助のときに小休止が習慣化した。

きっかけ

- ・入浴介助が腰に負担がかかるという職員の声があった。



整容時の作業姿勢を改善

費用の目安
数十万円

株式会社たつみ 柿の木坂有料老人ホーム
デイサービス柿の木坂
施設の種類：住宅型有料老人ホーム、通所介護 従業員規模：50人未満

成果

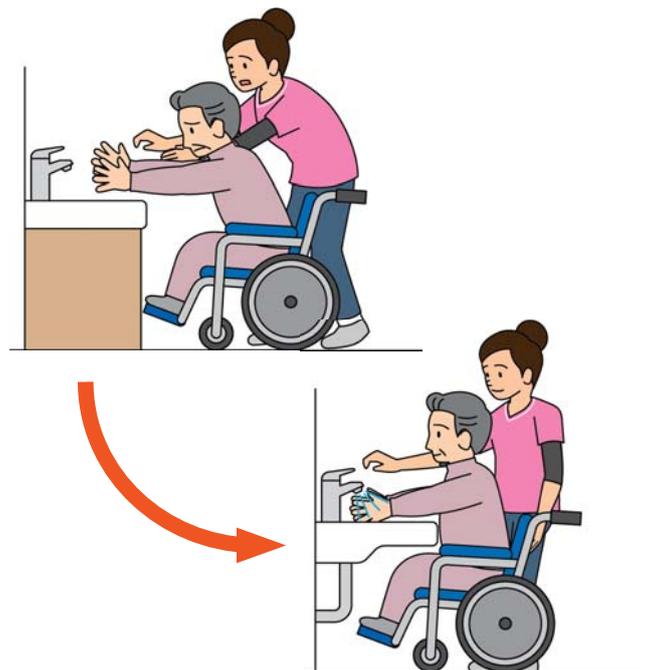
腰への負担が軽減

内容

- ・洗面台の下にスペースを設けて、車椅子を洗面台の奥まで入れるようにした。
- ・車椅子を洗面台の下のスペースに入れることで、介助のときに職員が前かがみにならないようになった。

きっかけ

- ・洗面台の下に収納があり車椅子が洗面台の奥まで入らず、後方から介助をするときに職員が前かがみになる必要があり、腰に負担がかかっていた。



口腔ケア時の作業姿勢を改善

費用の目安

数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザ高知

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・職員が座って口腔ケアが行えるよう椅子を購入し、利用者の居室に設置した。
- ・トイレにも椅子を設置し、排せつ介助のときにも座位や立位の姿勢が安定している利用者に対し、椅子に座り、洗浄を含む介助が行えるようにした。

きっかけ

- ・口腔ケアや排せつ介助のときに、前かがみ姿勢になる場面があり、前かがみ姿勢が持続することで腰に負担がかかっていた。



口腔ケアが行える椅子を購入して使用

トイレにも椅子を設置

介助時の作業姿勢を改善

費用の目安

数万円

社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会 特別養護老人ホームあざみの里

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

介助時の動作が安定

内容

- ・義肢装具士による研修と足の測定を実施し、靴と安定姿勢の重要性を周知し、動きやすい服装として運動靴の着用を推奨した。
- ・サンダルを履いていた職員が多く、靴を脱がなくても働けるよう、利用者居室にある常設の畳部屋を廃止し、足拭きマットを設置し、全館に外履きで入れるようにした。
- ・サンダルを履き続ける職員には、給与で支給している被服費の活用を周知した。
- ・履き替える場面を減少させることで、業務中の移動がスムーズになった。

きっかけ

- ・外部研修（ノーリフトケア）を受け、かかとのないサンダルやスリッパは足下が不安定になるので、業務中の転倒、つまずき、滑り、姿勢不良等によるケガ、腰痛につながることを学んだ。



足の測定を実施

洗濯物たたみ時の作業姿勢を改善

費用の目安
数万円

社会福祉法人小鳩会 特別養護老人ホーム小鳩園

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- 洗濯物を畳むテーブルの足の下に、庭にあったブロックを入れ、作業するときの肘の曲げ角度が90度になるようにした。
- 前かがみにならずに洗濯物を畳む作業ができるようになった。

きっかけ

- 洗濯室の洗濯物を畳む作業テーブルの高さは69cmで、職員は前かがみの姿勢で作業する必要があった。併せて洗濯物の枚数も多いことで、前かがみの姿勢で作業する時間が長く、腰に負担がかかっていた。

改善前



改善後



肘の曲げ角度が90度になった

清掃時の作業姿勢を改善

費用の目安
数千円

SOMPOケア株式会社
SOMPOケアそんぽの家小平仲町

施設の種類：特定施設入居者生活介護
従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- 柄の短いほうきから、柄の長いほうきに変更した。
- 前かがみにならずに掃き掃除をできるようになった。

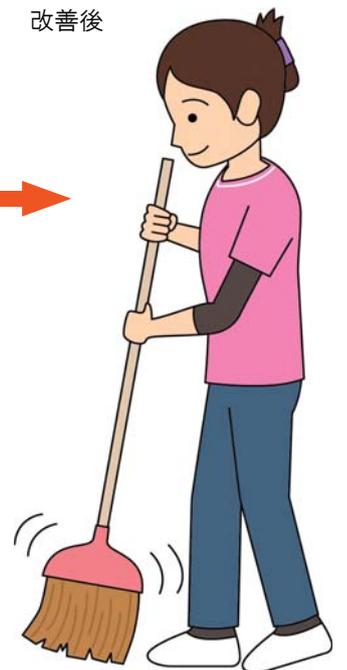
きっかけ

- 掃き掃除をするときに前かがみになるため、腰に負担がかかっていた。

改善前



改善後



清掃時の作業姿勢を改善

費用の目安

数千円

社会福祉法人なごみの杜
特別養護老人ホーム 菜の花館本町通り

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50人未満

改善前



改善後



成果

腰への負担が軽減

内容

- ・コード式の掃除機から、コードレスのスティック掃除機に変更した。
- ・コンセントにプラグを差し替える必要がなくなり、掃除の効率が向上した。

きっかけ

- ・コード式の掃除機は前かがみになってプラグを差し替える作業が生じるため、腰に負担がかかっていた。

清掃時の作業姿勢を改善

費用の目安

数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会
特別養護老人ホームウエルプラザ高知

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

改善前



改善後



成果

腰への負担が軽減

内容

- ・掃除機や福祉機器（例：床走行式リフト、スタンディングリフト）で日常的に使用するコンセントを延長コードを使用して高い位置に設置し、前かがみにならずにプラグを抜き差しできるようにした。

きっかけ

- ・他の施設見学をしたときに、コンセントが一般的に置かれる高さよりも高い位置に設置しており、前かがみにならずにプラグの抜き差しができることを学んだ。

洗浄作業時の作業姿勢を改善

費用の目安

数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザ高知

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・清拭タオルの洗浄作業で前かがみ姿勢にならないように作業台を設置し、その上にバケツを置いて作業するようにした。
- ・作業台の上を洗浄作業で使用する物品（例：バケツ）の置き場にした。
- ・清拭タオルの洗浄作業で前かがみ姿勢にならずに作業ができるようになった。

きっかけ

- ・清拭タオルを洗浄するときに、水の入った重いバケツや洗剤を床から持ち上げる必要があり、職員の腰に負担がかかっていた。
- ・使用する物品を置く位置が決められておらず、物品管理が不十分であった。



重いものを床から持ち上げるため、腰に負担がかかる



作業台を設置し、その上にバケツを置いた

洗浄作業時の作業姿勢を改善

費用の目安

数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会
特別養護老人ホームウエルプラザやまだ荘

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・汚物を処理する洗い場に、プラスチック板を筒状にしたものを設置し、高い位置で洗っても汚物が外に飛び散らないようにした。
- ・清拭タオルを洗うときに前かがみ姿勢にならずに作業ができるようになった。
- ・改善後、さらに使い捨ての清拭タオルを導入することで、清拭タオルを洗う作業がなくなり、効率も改善した。

きっかけ

- ・汚物のついた清拭タオルを洗うときに汚物が飛び散らないよう低い位置で洗っており、腰に負担がかかる前かがみ姿勢になっていた。
- ・清拭タオルを洗うときに汚物が服や壁に飛び散ることがあり、衛生面で問題があった。



汚物処理の洗い場が低く、高い位置で洗うと汚物等が散るため、前かがみ姿勢での作業を余儀なくされていた。

飛び散り防止対策を実施



前かがみ姿勢での作業がなくなった



使い捨ておしぼり機

上記の対策を経て、現在は清拭を洗うことをやめ、使い捨ての清拭を導入した。

物品取り出し時の作業姿勢を改善

費用の目安
数千円

社会福祉法人なごみの社
特別養護老人ホーム 菜の花館本町通り

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50人未満

成 果

腰への負担が軽減

内 容

- ・使用頻度の高い物品を職員が立ったまま取り出しやすい位置に収納するなど、使用頻度に合わせて物品の収納場所を設定した。
- ・職員が前かがみにならずに、使用頻度の高い物品を取り出せるようになった。

きっかけ

- ・物品を取り出すときに、腰を痛めた職員がいた。



改善後



見守りセンサーを導入

費用の目安
数万円

社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会 特別養護老人ホームあざみの里

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成 果

- ・時間のゆとりが生まれ、無理のない介助が実現
- ・腰痛の原因の一つである精神的ストレスが軽減

内 容

- ・利用者のベッドに設置したセンサーにより呼吸数、心拍数、覚醒、起床、離床を遠隔のモニターでリアルタイムに把握できるようにした。
- ・ケアの優先度を定める根拠として起床、離床のタイミングの情報、体調変化の根拠として睡眠パターンの情報を確認するようになった。離床の情報を確認し、利用者の行動に合わせた介護を行った。
- ・呼吸数、心拍数の情報を確認し、看取り介護中の利用者の変化にもすぐ気づけるようにした。
- ・職員・利用者ともに、精神的ストレスが軽減した。

きっかけ

- ・訪室や目視による安否確認は、利用者に精神的ストレスを与え、利用者の入眠を妨げる可能性があった。
- ・夜勤職員の身体的負担や、扉の向こうで急変しているかもしれないという精神的ストレスがあった。



利用者の状況をリアルタイムで把握するシステムの導入

インカムを導入

費用の目安
数万円

社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会 特別養護老人ホームあざみの里

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

時間のゆとりが生まれ、無理のない介助が実現



インカムに切り替え

内容

- ・連絡手段をフロアの電話とPHSからインカムに切り替えた。介護職の各フロアリーダーと他職種（ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、看護師、理学療法士、栄養士）、受付事務員の全20台で全館一斉に送受信することで、多職種連携効果を高めるようにした。
- ・緊急時や体調不良者の連絡、電話の取り次ぎだけではなく、2時間ごとの換気の声かけやレクリエーション・行事の誘導開始連絡も行うようにした。
- ・外線電話や来客の取次ぎ時間も大幅に短縮された。また、業務中の連絡も現場を離れずその場で行うことで伝達時間が短縮され、職員全体のコミュニケーションも円滑になり業務の効率も向上した。
- ・多職種の動きがリアルタイムで把握でき、職場の一体感が醸成された。

きっかけ

- ・電話が鳴ることで、業務の中断が多かった。介助中には電話にも出られず、外出している相談員を事務員が電話で探すことで、職員間の不満、伝達ミスや無駄も多かった。業務効率化には、簡単に瞬時に直感的に連絡できる体制作りが必要と考えた。

残存機能を活かした介助を提供

費用の目安
数万円

社会福祉法人なごみの杜

特別養護老人ホーム 菜の花館本町通り

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・トイレに利用者の前傾姿勢を支持するためのテーブルを設置した。
- ・職員が前方で支えなくても利用者の臀部が浮き、衣類の着脱や臀部を拭けるようになった。

きっかけ

- ・トイレ介助のときに、衣類の着脱や臀部を拭くときに前方から支えて実施していたため、腰に負担がかかっていた。

改善前



改善後



残存機能を活かした介助を提供

費用の目安
数千円

社会福祉法人小田原福祉会 潤生園
在宅介護総合センター れんげの里

施設の種類：通所介護 従業員規模：50人未満

成 果

腰への負担が軽減

内 容

- ・浴室の手すりに滑り止めテープを貼付した。
- ・利用者が力を入れやすくなったことで利用者の残存機能が有効に活用されるようになったので、職員が利用者を支えることが減った。

きっかけ

- ・入浴介助のときに、手すりが滑ると利用者がしっかりと握ることができず、利用者を支えるために腰に負担がかかっていた。



残存機能を活かした介助を提供

費用の目安
数千円

株式会社リハビリコンパス
地域リハビリケアセンター こんばす春日部

施設の種類：通所介護 従業員規模：50人未満

成 果

腰への負担が軽減

内 容

- ・浴室内に後付け式の手すりを複数設置し、立位保持できる利用者が自ら身体を支えられるよう工夫した。
- ・利用者の残存機能が活かせるようになり、職員が利用者を支えることが減った。

きっかけ

- ・備えつけの手すりが足りず、利用者が手すりを使って浴室を移動できなかったことから、職員が利用者を支える必要があり、腰に負担がかかっていた。



残存機能を活かした介助を提供

費用の目安
数万円

株式会社たつみ 柿の木坂有料老人ホーム
デイサービス柿の木坂

施設の種類：住宅型有料老人ホーム、通所介護
従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・浴槽の縁に移乗台を設置した。
- ・入浴介助のときに、利用者を抱え上げることなくリフトに移乗できるようになった。

きっかけ

- ・リフトを設置したが、利用者をリフトに抱え上げて移乗する必要があり、腰に負担がかかっていた。



利用者の状態に合わせた介助を提供

費用の目安
数千円

SOMPOケア株式会社 SOMPOケアラヴィーレ成城南

施設の種類：特定施設入居者生活介護 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・利用者の身体特性に応じた介助のポイントを作成し、利用者の居室の見やすい場所に貼った。
- ・ポイントをまとめて掲示したものを職員が確認したらサインするようにした。なお、介助内容を変更した場合には介助のポイントを書き換えるようにした。
- ・移乗介助やベッド上の介助（例：おむつ交換、シーツ交換）のときに、利用者に合った介助を提供できるようになった。

きっかけ

- ・利用者の身体機能が異なり、残存機能を活かした介助を提供できていなかった。

申し送り
12月 15日 100号室 〇〇 〇〇 様

正方形クッション2つとバスタオルを使用して、左写真のようにポジションングをお願いします。
下腿は左への捻じれが強いため、膝のお皿が力上を向くようにすると、お腹への圧力も緩くなります。
苦しくないような姿勢を作ってあげてください。

読んだら〇してください 読まれたら〇してください

A	B	C	D	E	F	G	H	I
J	K	L	M	N	O	P	Q	
1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15			

介助のポイント(例)

利用者の状態に合わせた介助を提供

費用の目安
数十万円

SOMPOケア株式会社 SOMPOケアそんぼの家小平仲町

施設の種類：特定施設入居者生活介護 従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・端末を使用して身体機能を含む個人特性（耳の聞こえ、まひ側）を共有し、利用者の身体機能に応じたサービスの質を担保する体制を作った。
- ・共有された利用者の個人特性を確認することで、利用者にあった適切な介助を提供できるようになった。

きっかけ

- ・利用者の身体機能に応じて介助方法も異なるが、利用者の個人特性が分からず過介助になったり、予想外の介助が必要になったりすることがあり、腰に負担がかかっていることがあった。



利用者の状態に合わせた介助を提供

費用の目安
数千円

社会福祉法人小鳩会 特別養護老人ホーム小鳩園

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・移乗介助による利用者の骨折事故の再発防止策として、利用者の身体状況に応じて介助方法（①立位での移乗、②座位移乗、③ボード移乗、④リフト移乗）を定めるようにした。
- ・床走行式リフトの使い方は、既に全員が習得していたので、スライディングボードの使い方を集合研修による教育と動画共有Webサイトの視聴で復習できるようにした。
- ・骨折事故は、場合によっては施設だけでなく介護職員本人も刑事責任に問われる時代であることを全職員に周知した。
- ・介護度の高い利用者の移乗には2名の職員が必要だったが、床走行式リフトの使用により、1名で利用者を抱え上げることなく、移乗介助ができるようになった。
- ・利用者の骨折事故が起きなくなった。

きっかけ

- ・床走行式リフト、スライディングボードを導入し、ベッドと車椅子との間の移乗介助で抱え上げずにできるようにしていたが、抱え上げての移乗介助が原因だと考えられる利用者の骨折事故が発生した。



スライディングボード



床走行式リフト

利用者の状態に合わせた介助を提供

費用の目安
数千円

社会福祉法人吹上苑
特別養護老人ホーム やすらぎの家

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・これまでの姿勢教育に加えて、作業自体を適切かつ安全にできるよう介助方法の動画を作成した。
- ・動画を使用し、介助方法の標準化を開始した。
- ・利用者に適した介助方法を提供し、過度な介助を防止することができた。
- ・利用者職員、双方に負担が少なく安全に行える介助方法が増えた。

きっかけ

- ・介助に工夫が必要な利用者（例：拘縮がある利用者、意思疎通が難しい利用者）に適した介助で、かつ、安全に作業ができる作業マニュアルがなく、介助量が多くなり腰に負担がかかっていた。

⑤頭側サポートと足側サポートに分かれて同時にご利用者の身体を少しだけ側臥位にして重心をフレックスボード側にかけることでより移乗が行ないやすくなります。



サポート位置



重心を傾けた図

使用した動画の1コマ

利用者の状態に合わせた介助を提供

費用の目安
数千円

社会福祉法人吹上苑 特別養護老人ホーム やすらぎの家

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・理学療法士等（職員）が講師となり、1回30分程度で「腰痛予防の知識」「福祉用具の使い方」等の腰痛予防対策教育を繰り返し行った。
- ・少しずつ介助方法の統一が図れ、スライディングボード等の福祉用具の使用頻度が増加してきた。

きっかけ

- ・利用者の身体機能に合わせた介助方法が統一されておらず、必要以上に抱え上げたりすることで、腰に負担がかかっていた。



⑩介助者の手位置と支え方（写真左）
介助者はボード側は脇下から肩甲骨あたりを支え反対側の手はご利用者の腰に置く。

⑪滑らせて移乗する（写真右）
ご利用者の身体を移乗側に斜め前にする。
介助者は利用者の脇下に手を入れて身体を支えながら、腰においた手を押すイメージでご利用者の体重がボードに乗ってゆっくりと滑る。

腰痛予防対策教育の1コマ

利用者の状態に合わせた介助を提供

費用の目安
数万円

SOMPOケア株式会社 SOMPOケアそんぼの家小平仲町

施設の種類：特定施設入居者生活介護 従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・本部所属の理学療法士が、利用者にあった適切な介助方法等についてアドバイスを実施した。
- ・理学療法士のアドバイスに従って介助を行うことで、職員が無理な介助を行わなくなった。

きっかけ

- ・拘縮こうしゆくなどがあって介助が難しい利用者の介助方法に困っていた。



利用者の生活リズムに合わせた介助を提供

費用の目安
数万円

SOMPOケア株式会社 SOMPOケアそんぼの家小平仲町

施設の種類：特定施設入居者生活介護 従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・時間を決めて一斉に介助（食堂への移動による離床・移乗介助やおむつ交換）することを止め、利用者の生活リズムに合わせて介助できるように職員のシフトを組んだ。
- ・利用者の生活リズムで介助を行うため、介助時間が短縮した。

きっかけ

- ・利用者の生活リズムには個人差があり、一斉に食事介助やおむつ介助を行うと利用者個人のタイミングと相違する場合があります、介助に時間を要することがあった。



口腔ケア



移乗介助



業務負担を把握

費用の目安
数万円

SOMPOケア株式会社 SOMPOケアそんぽの家小平仲町

施設の種類：特定施設入居者生活介護 従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・介助の負担が大きい利用者（例：体重が重い利用者、拘縮がある利用者、意思疎通が難しい利用者）を連続して担当しないように、シフトを組むようにした。

きっかけ

- ・介助の負担が大きい利用者の介助が連続すると、腰に負担がかかっていた。

業務表 20●●年●月●日(●)

時	分	45	43	38	32
		夜2	明2	早番2	遅番2
07	00		トイレ介助	07:14 (1) 移動介助	
			07:16 (5) 移動介助	07:05 (1) 服薬介助	
			07:21 (4) 体位変換	07:06 (7) 排泄介助	
			07:25 (5) 移動介助	07:13 (3) 着脱介助	
				07:16 (7) 排泄介助	
				07:23 (5) 移動介助	
				07:28 (3) 移動介助	
			07:30 (3) トイレ介助	07:31 (1) 居室配膳・下膳	
				07:37 (4)	

シフト表(例)

業務負担を把握

費用の目安
数千円

株式会社リハビリコンパス 地域リハビリケアセンター こんぱす春日部

施設の種類：通所介護 従業員規模：50人未満

成果

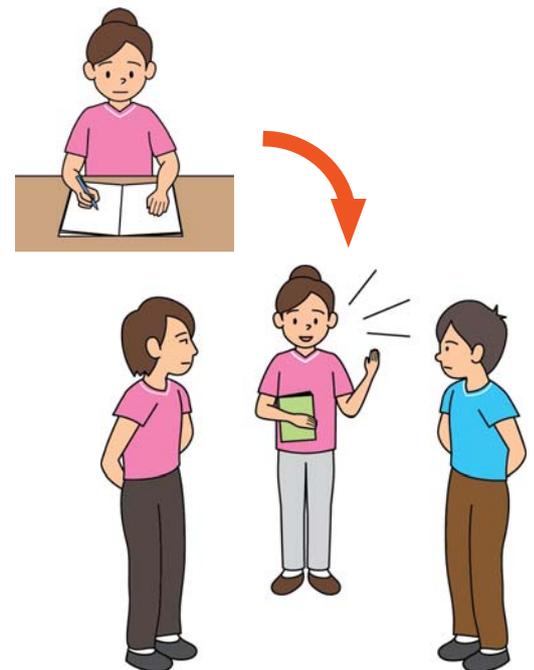
作業分担が適正化

内容

- ・腰への負担が大きい作業や特定の職員への偏りなどの情報を、ノートに書き出した。
- ・この情報を朝のミーティングで共有・確認し、2人介助への変更、担当の変更を活用するようにした。

きっかけ

- ・デイサービス部門で、腰への負担が著しく大きなもの以外は見過ごされがちだった。
- ・サービスがスタートするとそれぞれが利用者の対応に当たっており、手助けが必要でも無理をして1人で対応し、腰に負担がかかっていた。



業務負担を把握

費用の目安
数万円

社会福祉法人小田原福祉会 潤生園 在宅介護総合センター れんげの里

施設の種類：通所介護 従業員規模：50人未満

成果

**腰痛を訴える職員の早期把握、
早期対応が実現**

内容

- ・4カ月に1回、管理職が職員と個人面談を実施し、腰痛を含む業務の負担を把握するようにした。

きっかけ

- ・職員の離職防止及びワークエンゲイジメント向上を目的に、管理職が個人面談を実施するようにした。



管理職が職員と個人面談を実施

業務負担を把握

費用の目安
数万円

SOMPOケア株式会社 SOMPOケアそんぼの家小平仲町

施設の種類：特定施設入居者生活介護 従業員規模：50人未満

成果

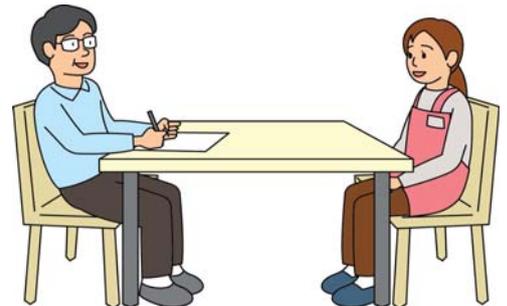
腰痛を訴える職員の早期把握、早期対応が実現

内容

- ・施設の管理者が、職員の業務の負担感を1～2カ月に1回の個人面談で把握するようにした。また、個人面談の前に職員の状態（例：腰に手を当てている、腰痛ベルトをしている 等）を観察して、個人面談のときに確認するようにした。
- ・施設の管理者は、本部が実施する管理職研修で個人面談の実施方法を学んでいる。

きっかけ

- ・管理職が職員とのコミュニケーションをしっかりととり、事業運営を円滑にするために個人面談を実施した。



運搬作業に台車を使用

費用の目安
数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会
特別養護老人ホームウエルプラザやまだ荘

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

慢性的に腰痛を訴える職員が8割減少

内容

- ・手で運ぶと落とすリスクがある物品は、全て台車やカートで運ぶようにした。
- ・ノートパソコンやタブレットも手で持たずにカートで運ぶようにした。

きっかけ

- ・職員が前が見えないほどの洗濯物をかごや袋に大量に入れて運んでおり、物品を落とすリスクがあった。
- ・介護業務以外でも重たい物を手で持って運ぶことが多かった。



台車やカートを使用

運搬作業に台車を使用

費用の目安
数千円

社会医療法人近森会 近森リハビリテーション病院

施設の種類：一般病院 従業員規模：100-999人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・ポータブルトイレは必ず台車を使って運搬するようにした。
- ・在庫のポータブルトイレは、台車の上面とほぼ同じ高さのラックに保管し、台車への積み下ろしのときに起きる腰への負担を軽減するようにした。

きっかけ

- ・10kg弱のポータブルトイレを人力で抱えて運搬しているケースがあり、腰と背部への負担を訴える職員がいた。



台車を使って運搬



台車の上面とほぼ同じ高さのラックにポータブルトイレを保管

運搬作業に台車を使用

費用の目安
数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザ高知

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・荷物運搬用の台車を手作りしたり、キャスター付きの棚を購入したりすることで、できるだけ荷物を持ち上げないで運べる環境を整えた。
- ・台車で運搬したり、キャスター付きの棚に載せたまま運搬するようになり、重量物を持ち上げる機会が減った。

きっかけ

- ・ノーリフトケアの研修に参加したことで、持ち上げない、引きずらない、ねじらないことを学び、介助以外の業務でも環境を整える必要があると感じた。



台車やキャスター付きの棚を使用

運搬作業に台車を使用

費用の目安
数千円

社会福祉法人小鳩会 特別養護老人ホーム小鳩園

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・使わなくなった車椅子をバケツ運搬用の台車にした。
- ・バケツは利用者の入浴中にも車椅子に乗せたままにし、入浴後、バケツいっぱいになった衣類を車椅子で洗濯室まで運搬するようになった。
- ・転倒リスクも軽減した。

きっかけ

- ・利用者が入浴時に脱いだ衣類は大きいバケツに入れ、利用者全員の入浴終了後に、職員がバケツを抱え上げたり引きずったりして浴室から50mほどの洗濯室に運搬していた。
- ・使わなくなった車椅子は、左右の肘掛け、背中側の3方向があるので、これにバケツを載せても落下しにくく、バケツの運搬に活用できると考えた。



車椅子をバケツ運搬用の台車に

持ち上げる動作を排除

費用の目安
数万円

社会医療法人近森会 近森リハビリテーション病院

施設の種類：一般病院 従業員規模：100-999人

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・消毒容器（写真中の青色の容器）への注水の際に、水道の蛇口横に取り付けた専用バルブに接続したホースを使用して注水するようにした。
- ・他の場所で消毒洗浄を行う場合は、小さな消毒容器（写真中の灰色の容器）をキャスター付きの台の上に載せてから、このホースを使用して注水するようにした。
- ・消毒容器を持ち上げずに、注水、排水や運搬ができるようになった。

きっかけ

- ・腰に負担がかかる業務を洗い出す目的で職員に負担を聞き取ったところ、水道の蛇口からバケツにいったん水をくんでから他の容器に注水していることを把握した。



持ち上げる動作を排除

費用の目安
数千円

株式会社たつみ 柿の木坂有料老人ホーム
デイサービス柿の木坂

施設の種類：住宅型有料老人ホーム、通所介護
従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・椅子の脚に布を巻いて、床を滑らせて移動できるようにした。
- ・職員が椅子を持ち上げずに移動するようになった。

きっかけ

- ・食堂で集まって食事をするときに、多くの椅子を移動させる必要があり、腰に負担がかかっていた。
- ・腰痛を訴える職員の負担を少しでも軽減させたいと考えた。

改善前



改善後



椅子の脚に布を巻いた

運搬作業を排除

費用の目安
数万円

社会福祉法人小鳩会 特別養護老人ホーム小鳩園

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50人未満

成果

腰への負担が軽減

内容

- ・車椅子用の体重計を新たに購入し、各フロアに設置した。
- ・車椅子用の体重計1台の値段と、職員がギックリ腰で10日間休み、派遣職員を依頼した場合にかかる費用の目安を比較することで、購入のハードルが下がった。
- ・車椅子用の体重計の運搬作業がなくなった。

きっかけ

- ・車椅子用の体重計が1階に1台あるだけで、2階で使うときは2階から運搬して使っていた。施設にはエレベーターがなく、約30kgある体重計を階段を使って1人で運搬していた。比較的体力のある40代後半の職員が運搬しており、負担が集中していた。



体重計を運んでいた階段



体重計を購入し解決

運搬作業を排除

費用の目安
数十万円

社会医療法人近森会 近森リハビリテーション病院

施設の種類：一般病院 従業員規模：100-999人

成果

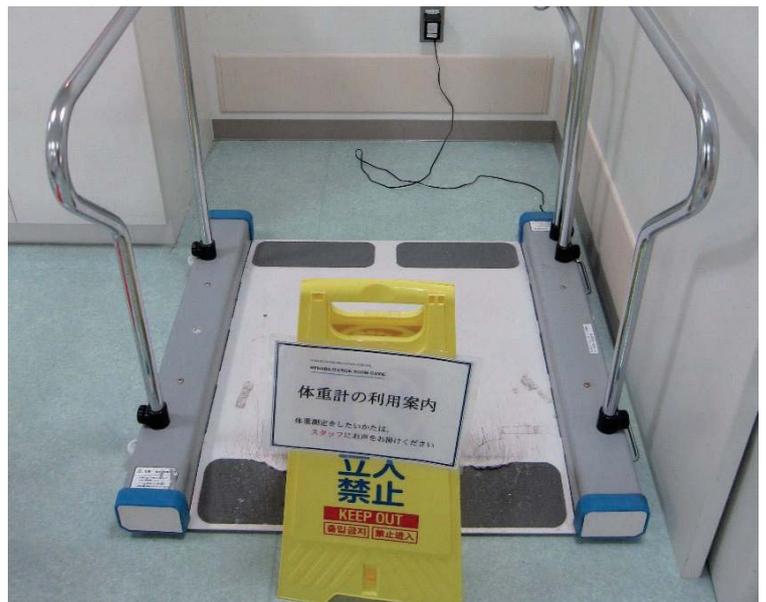
腰への負担が軽減

内容

- ・車椅子用の体重計（重量：約30kg弱）を各フロアに設置し、体重計の運搬作業をなくした。
- ・患者を体重計まで移動する時間が短縮できた。

きっかけ

- ・車椅子用の体重計が院内に1台しかなく、必要に応じて患者を体重計まで移動させるか、体重計を患者が使用するフロアまで運搬するかのいずれかの対応が必要だった。



車椅子用の体重計を各フロアに設置

腰痛の程度を把握

費用の目安

数千円

社会福祉法人高春福祉会 特別養護老人ホームはるの若菜荘

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

取り組み後、業務によって腰痛になり、離職した者がゼロ

内容

- 春と秋の年2回、腰痛を含む健康状態の調査を行い、腰痛の程度を把握するようにした。
- 調査結果を分析し、腰痛を訴える職員がいた場合には、業務見直しと同時に個人的要因も把握し、改善するようにした。

きっかけ

- ノーリフトに取り組みはじめたときに、腰痛を訴える職員の実態把握が必要と考えた。

2023年度
職員の健康状態

氏名	性別	男・女	年齢	歳
使用方法が難しいと思う福祉用具		【親しく感じる理由】		
業務内で身体に痛みや負担を感じる介助場面				
評価基準	1 ほとんどない 2 時々ある 3 たびたび(よく)ある 4 いつもある			
項目	評価日 (2023年4月 日)	評価日 (2023年10月 日)	備考	
腰痛	1・2・3・4	1・2・3・4		
下肢の痛み	1・2・3・4	1・2・3・4		
下肢のしびれ	1・2・3・4	1・2・3・4		
膝や肩こり	1・2・3・4	1・2・3・4		
上肢の痛み	1・2・3・4	1・2・3・4		
上肢のしびれ	1・2・3・4	1・2・3・4		
だるさ	1・2・3・4	1・2・3・4		
頭痛	1・2・3・4	1・2・3・4		
食欲がない	1・2・3・4	1・2・3・4		
不眠	1・2・3・4	1・2・3・4		
イライラしている	1・2・3・4	1・2・3・4		
不安がある	1・2・3・4	1・2・3・4		
疲労感が残る	1・2・3・4	1・2・3・4		
元気が出ない	1・2・3・4	1・2・3・4		
すぐ腹が立つ	1・2・3・4	1・2・3・4		
仕事から逃げたい	1・2・3・4	1・2・3・4		
ストレスがたまる	1・2・3・4	1・2・3・4		

腰痛を含む健康状態の調査用紙(見本)

腰痛の程度を把握

費用の目安

数万円

社会福祉法人ふれあいコープ コープデイサービスセンター江曾島

施設の種類：通所介護 従業員規模：50人未満

成果

個人的要因に応じた対策が定着

内容

- 年2回保健師による簡易的な腰痛調査を実施し、有所見者に対し2次調査を実施した。
- 調査結果は産業医に報告し、就業上の措置が必要と判断された職員に対し、介護リスクアセスメントシートを用いて理学療法士(職員)が個別に腰痛予防対策を指導した。
- 理学療法士(職員)に自主的に相談する職員が増えた。

きっかけ

- 職員が腰痛を訴えていても、腰痛の程度が不明なことや個人的要因(例：体格、筋力)の影響も分からず苦慮していた。



腰痛健康診断を実施

費用の目安
数十万円

社会福祉法人吹上苑
特別養護老人ホーム やすらぎの家
施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰痛を訴える職員の早期対応が実現

内容

- 介護課の常勤職員に対して、問診票を使用して年2回の腰痛健康診断を産業医が実施するようになった。

きっかけ

- 腰痛をはじめ、身体的な負担により突発的に休む職員がいた。
- 職場における腰痛予防対策指針を参考に取組を開始した。

問診票(見本)

ラジオ体操を実施

費用の目安
数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会
特別養護老人ホームウエルプラザ高知
施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

筋肉の柔軟性が向上

内容

- 朝9時50分から全館放送で音楽を流して実施しているラジオ体操に、利用者と一緒に職員も参加するようになった。
- 職員は自分の身体を守る意識が高まり、全身運動であるラジオ体操の実施が習慣になった。

きっかけ

- ノーリフトケアの研修では自分の身体を守るという意識が大切ということを知り、自分たちが勤務内で行える体操が必要と考えた。



腰痛予防体操を導入

費用の目安
数千円

医療法人恕泉会 リハビリテーション病院すこやかな杜

施設の種類：一般病院 従業員規模：100-999人

成果

腰痛有訴率が令和2年度36.6%、令和3年度38.7%、令和4年度23.1%に減少

内容

- ・業務の合間に取り入れることができる簡単なストレッチとして、高知県が推奨している「腰痛予防体操 プラマイゼロ体操」を導入した。
- ・さまざまな場面・場所で実践できるように、ポスターを作成して院内のエレベーター前や出入り口扉といった立ち止まるところに貼り、動画を流した。

きっかけ

- ・体操を取り入れることが良いと分かっていたても、時間の確保が困難であった。また、体操の時間を決めただが、体操が始まって業務途中であれば、業務を止めることはなかった。
- ・就業前後の体操を導入していたが、実践者は少なかった。



プラマイゼロ体操の導入



ポスターを貼って意識づけ

腰痛予防体操を導入

費用の目安
数万円

社会福祉法人ふれあいコープ コープデイサービスセンター江曾島

施設の種類：通所介護 従業員規模：50人未満

成果

筋肉の柔軟性が向上

内容

- ・理学療法士（職員）が、腰痛予防体操情報入手し、指導した。
- ・腰痛予防のための取組であることから、腰痛を訴えていない職員も含めて実施した。
- ・業務の隙間時間や終業後に体操を意識的に行う職員が増えた。

きっかけ

- ・腰痛を訴える職員がおり、「職場における腰痛予防対策指針」を参考に継続しやすい内容を中心に実施したいと考えた。



ストレッチを導入

費用の目安

数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザやまだ荘

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

筋肉の柔軟性が向上

内容

- ・職員通用口にストレッチの手順を掲示し、関節の可動域を広げたり、縮んだ筋肉をしなやかに動きやすくするストレッチを行ってから業務に入るようにした。
- ・業務前だと時間がないことがあるので、さまざまな関節部位を律動的に、リズムカルに動かす全身運動であり、血流がよくなるラジオ体操を利用者と一緒に行うようにした。
- ・ストレッチを行ってから業務を行うことで、体が動かしやすくなったとの意見が多くなった。

きっかけ

- ・ストレッチを行うことで、腰痛の発生が軽減することを研修で学んだ。
- ・現場の業務スタッフに対して、ストレッチの必要性があることを周知するための時間がとれなかった。



職員通用口にストレッチの手順を掲示

スクワットを導入

費用の目安

数千円

社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会 特別養護老人ホームあざみの里

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

介助時の動作が安定

内容

- ・毎日継続できるように朝夕の申し送りのときに、体操とスクワットをするようにした。
- ・スクワットを取り入れることで、腰を落とした作業姿勢をとれるようにした。
- ・身体の使い方を意識するようになり、腰を落とした作業姿勢を実践するようになった。
- ・コミュニケーションの一つにもなり、フロアの雰囲気が悪くなった。また、チーム力も培われるようになった。

きっかけ

- ・職員にアンケートを行った結果、日頃から運動習慣がない職員が多く、就業後の腰のだるさや痛みを感じている職員が多いことが分かった。また、長座体前屈で柔軟性の測定を全職員に行ったところ、柔軟性が乏しい職員が多く、ケガや腰痛のリスクが高かった。
- ・福祉用具（例：リフト）を使うことがノーリフティングケアだと感じている職員が多く、まずはケアを行う自分たちの身体を知り、身体の使い方を意識するようになりたいと考えた。



スクワット運動を実施

福祉用具の使い方を教育

費用の目安

数万円

社会福祉法人緑峰会 特別養護老人ホーム グリーンライフ

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

福祉用具の使用が定着

内容

- ・外部の講師を呼んでユニットリーダー・一般職員向けにベッド上介助のときにベッド昇降の必要性やスライディングシートを使用した体位変換の方法、移乗介助のときの利用者の足の位置や、スライディングボードを使用した介助方法についての研修を実施し、腰に負担がかかりにくい介助方法の作業手順や要所の確認をした。
- ・研修実施により、電動昇降ベッドの昇降機能やスライディングボードの使用率が上がった。

きっかけ

- ・福祉用具（例：スライディングボード、電動昇降ベッド）があるが活用しきれておらず、複数の職員が腰痛を訴えていた。



介助方法について
研修を実施



福祉用具の使い方を教育

費用の目安

数万円

社会福祉法人小田原福祉会 潤生園
在宅介護総合センター れんげの里

施設の種類：短期入所生活介護 従業員規模：50人未満

成果

ノーリフトケアへの意識が向上

内容

- ・外部の理学療法士とともに、未導入のスライディングボードを使用した車椅子からベッドへの移乗介助方法を教育した。
- ・職員のノーリフティングケアへの意識が向上し、ノーリフティングケアの研修会に職員が参加した。

きっかけ

- ・ノーリフティングケアが浸透しておらず、人力で抱え上げていた。



移乗介助方法を教育

雇入れ時に介助方法を教育

費用の目安
数千円

株式会社たつみ 柿の木坂有料老人ホーム
デイサービス柿の木坂

施設の種類：住宅型有料老人ホーム、通所介護 従業員規模：50人未満

成果

腰痛予防への意識が向上

内容

- ・雇入れ時教育の中で、施設所属の生活相談員が新入職員に対し、腰に負担がかかりにくく腰痛になりにくい移乗介助方法（利用者に近づくことや、足の位置）を教育するようにした。

きっかけ

- ・介護未経験の職員は、腰に負担のかからない介助方法を知らなかった。



腰痛予防教育に中央労働災害防止協会の教材を使用

費用の目安
数千円

株式会社リハビリコンパス
地域リハビリケアセンター こんぱす春日部

施設の種類：通所介護 従業員規模：50人未満

成果

腰痛予防教育が実現

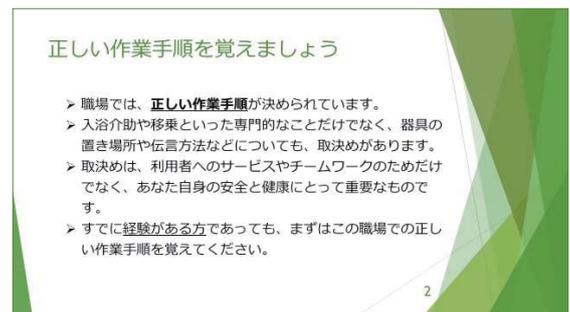
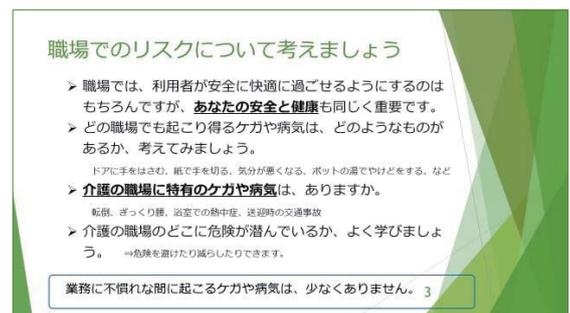
内容

- ・中央労働災害防止協会※より、雇入れ時教育時やその他の研修教材の提供を受けた。
- ・研修教材を使用して腰痛予防のための労働安全衛生教育を実施した。

きっかけ

- ・介護技術や労務管理・マナーについては教育を実施していたが、腰痛対策を含む労働安全衛生の教育が不足していた。

※「4. 参考」中の「支援機関」を参照



研修教材（抜粋）

ヒヤリハット事例を収集

費用の目安
数千円

社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザやまだ荘

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

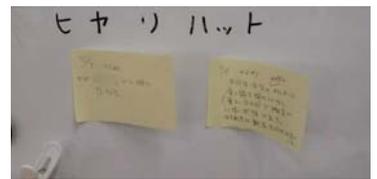
腰痛予防への意識が向上

内容

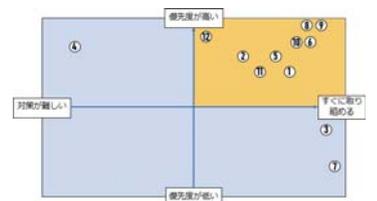
- ・職員から業務中にヒヤリとした経験や、ハットとした経験を収集した。
- ・収集した事例を基に、現場の状況を把握し、①優先度が高くすぐに取り組める、②優先度は高いが対策が難しい、③優先度は低いがすぐに取り組める、④優先度が低く対策が難しい、の4つの考え方で分類し、職員に共有した。
- ・職員自身が、できるものから業務を見直し、改善に取り組んだ。

きっかけ

- ・慢性的な腰痛を訴える職員が多く、身体的または精神的な負担がある業務を把握する必要があった。



①床が濡れている（滑る可能性あり）
②ベッドキャッチアップする際に入居者が寝たままになっており、手をはさみそうになった。
③廊下を歩いているときに、反対側に人がおりぶつかりそうになる。
④注意書きを貼ってあるが目立たない。
⑤伝達事項が正確に伝わっていない。
⑥介助車イスの速度スピードが速い。
⑦利用者を手回しで行っている時につまづきがあった。
⑧起立ベッドを一番下まで下げた時、自分の足をささみそうになった。
⑨コイルマットなど電源が落ちた。
⑩車いすブレーキのかけ忘れや、アームサポートのロックし忘れがあった。
⑪車椅子で移動中、利用者が手すり等に手を伸ばそうとした。
⑫車椅子の整備不良があるまま使っている。
⑬リフトなどフックが止まっていなかった。



ヒヤリハット事例を収集

費用の目安
数千円

社会福祉法人高春福祉会 特別養護老人ホームはるの若菜荘

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰痛予防への意識が向上

内容

- ・リスクマネジメント委員会に対して、年に1回、業務中のヒヤリハット事例（身体を痛めそうな体験）を各施設から報告してもらうようにした。
- ・報告内容を分析して対策を検討し、取組ができそうなことから、職員に周知徹底し実施するようになった。
- ・職員が、物や設備・環境、作業方法・手順、その他要因を客観的に把握する視点が持てるようになった。

きっかけ

- ・いつも行っている作業や動作によって腰痛になることを、職員自らが気づく必要があった。

「今気づいて、働きやすい労働環境をつくる」 NO. _____

ヒヤリハット報告書

働いている職場環境で、このままだと慢性的な行動などで、腰痛や健康を害する問題がでそうな部分を書き出してください。特に、中腰姿勢や不良姿勢が連続に続く場面や環境を想定して書き出してください。

令和 年 月 日
*先の所属部署に○をしてください。 若菜荘 もろぎ ほのか 居宅

物や設備、環境等	(例)ゴミ箱が低い位置にあり、中腰にならないと入らない。また、ゴミ箱を取るときに中腰になる。
作業の方法、手順	(例)マニュアルの不足
その他の要因	
提案・要望等 (私はこうする)	
リスクマネジメント委員会 原因分析と対策	令和 年 月 日

ヒヤリハット報告書(見本)

ヒヤリハット事例を共有

費用の目安
数千円

医療法人仁智会 介護老人保健施設ヘルシーケアなはり

施設の種類：介護老人保健施設 従業員規模：50-99人

成果

腰痛予防への意識が向上

内容

- ・通所リハビリでは、毎週月曜日に実施している業務後の申し送りのときに、ヒヤリハット事例を職員同士が共有し、対策や評価を職員同士で話し合うようにした。
- ・ヒヤリハット活動の意義やヒヤリハット事例に対するポジティブな共通認識が醸成されるよう、会議で繰り返し、理解を促した。また、介護の不安もヒヤリとした事案として考えて、取り上げるようにした。
- ・ヒヤリハット事例が多く出るよう、みんなで達成するという目標を共有し、雑談に出てくる利用者や環境整備の話でも「それ、ヒヤリじゃない？」と声を掛け合うようにした。
- ・訪問介護では、会議の時間が取れないので、訪問時のヒヤリハット事例を写真や動画に撮り、SNSツールで職員同士が共有し、互いに情報を把握できるようになった。

きっかけ

- ・利用者についての気づきは、職員同士で事務所で話題にすることはあっても、働いている自分のつらさや大変さの声を上げづらい雰囲気があった。一人ひとりが我慢しないといけないと思っていた。
- ・組織としてノーリフトケアに取り組む方針を決め、立ち上げた委員会での話し合いの結果、組織としての年間目標と年間計画にヒヤリハット活動を位置づけることにした。



ヒヤリミーティング



ヒヤリハット提出ボード

職員参画で腰痛予防対策を決定

費用の目安
数千円

社会福祉法人吹上苑 特別養護老人ホーム やすらぎの家

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

腰痛予防対策が促進

内容

- ・職員に「職場において必要だと思う腰痛の対策」についてのアンケートを取った。
- ・挙げられた各種対策について衆目評価※による優先順位付けを行い、優先度の高い対策から順に実行に移した。

※衆目評価：参加者が全ての案に従量投票を行い、合計値で優先度を決定する方法

きっかけ

- ・施設として職員の腰痛対策に取り組みたいと思っていたが、腰痛対策と言ってもさまざまな対策があり、何から取り組めば良いかが分からなかった。



衛生委員会で腰痛予防対策を調査審議

費用の目安
数千円

社会福祉法人吹上苑 特別養護老人ホーム やすらぎの家

施設の種類：介護老人福祉施設 従業員規模：50-99人

成果

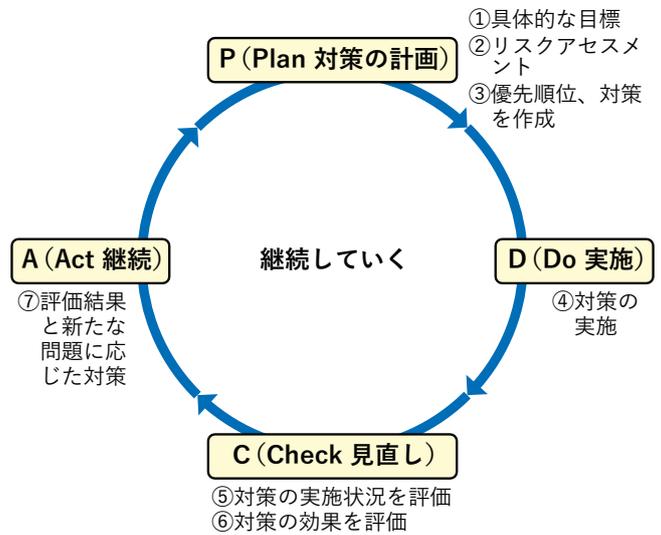
腰痛予防対策が促進

内容

- ・従業員の腰痛等の安全衛生課題を経営リスクとして捉えるようにし、衛生委員会の活動を年間事業計画において他の委員会活動（例：介護事故防止対策委員会、感染症対策委員会等）と同列に位置付けた。
- ・事業活動の一環として委員会ごとに年間目標と計画を立て、内容を評価し安全衛生活動をPDCAサイクルで展開した。

きっかけ

- ・腰痛をはじめ身体的な負担による突発的な休みが発生し、職員の負担が増加していた。



腰痛対策を検討する委員会を設置

費用の目安
数十万円

医療法人須崎会 高陵病院

施設の種類：一般病院 従業員規模：100-999人

成果

腰痛予防対策が促進

内容

- ・腰痛対策・ケアの質向上を目的に委員会を立ち上げ、定期的に開催して看護・介護現場の困難事例の把握や対策を検討するようにした。
- ・委員会の活動の結果、現場の労働安全衛生教育の中で各種福祉用具の使用方法を教育し、外部から福祉用具（例：床走行式リフト）を導入した。
- ・人力だけで行う介助方法のデメリットの理解が進み、福祉用具の使用頻度が増加した。

きっかけ

- ・高知県がノーリフティングケアの取組を開始したことをきっかけに、腰痛対策・ケアの質向上に取り組むことにした。
- ・地域で高齢化が進み、ケアにおける課題（重度化予防）が在宅復帰における課題になることが多く見られるようになった。



委員会での実技研修風景



福祉用具レンタル品(例)

併設施設と合同で腰痛予防対策を実施

費用の目安
数千円

医療法人恕泉会 内田脳神経外科

施設の種類：診療所 従業員規模：100-999人

成果

併設施設の腰痛予防対策が促進

内容

- ・診療所と併設の介護老人保健施設が合同で腰痛予防対策委員会の開催や安全衛生教育の計画立案を行い、統一したアセスメントシートを用いるようにした。
- ・介護老人保健施設でもノーリフトケアが定着した。
- ・両方の施設で介助を受ける患者、家族にとっては、両施設で受ける介助方法の違いで不安を感じる事がなくなり、患者の身体機能の向上につながった。

きっかけ

- ・診療所ではノーリフトケアが行われていたが、併設の介護老人保健施設ではノーリフトの教育を行う人材が不足し、ノーリフトケアが定着していなかった。
- ・診療所の入院患者が退院後に介護老人保健施設で入所や通所サービスを利用する場合、介助方法が異なり、患者に戸惑いがみられた。介護サービスの利用者が入院となる場合も同様の課題があった。

氏名	性別	年齢	職	担当	担当	担当	担当	担当	担当
氏名	本人の身体機能	褥瘡、褥瘡発生、悪化している有無	居室でのケア方法	中継室、トイレケア	移動時のケア				
氏名	認知機能	認知機能検査結果(10項目)で結果あり							
氏名	歩行能力	歩行能力検査結果(10項目)で結果あり							
氏名	転倒リスク	転倒リスク検査結果(10項目)で結果あり							
氏名	食事摂取量	食事摂取量検査結果(10項目)で結果あり							
氏名	排便機能	排便機能検査結果(10項目)で結果あり							
氏名	排尿機能	排尿機能検査結果(10項目)で結果あり							
氏名	その他	その他検査結果(10項目)で結果あり							
氏名	担当	担当	担当	担当	担当	担当	担当	担当	担当

【アセスメントシート記載例】

4. 参考

厚生労働省

ホームページ



腰痛予防対策



保健衛生業における腰痛の予防

腰痛予防対策（取組内容／支援策）と参考情報（教材・資料／関係機関・制度）

職場における腰痛予防対策指針及び解説



一般的な腰痛の予防対策と腰痛の発生が比較的多い重量物取扱い作業、介護・看護作業等の腰痛予防対策

支援機関



中央労働災害防止協会
集合型の研修・セミナーや専門家が事業場を訪問して安全衛生教育や現場指導を無料で実施（中小規模事業場安全衛生サポート事業）



産業保健総合支援センター（独立行政法人労働者健康安全機構）
産業保健関係者を支援するとともに、事業主等に対し職場の健康管理への啓発を実施

ノーリフトケアを推進している団体



一般社団法人
全国ノーリフトケア
推進協会



一般社団法人
ナチュラル
ハートフルケア
ネットワーク



一般社団法人
日本ノーリフト協会

ノーリフトケアを推進している自治体



高知家まるとノーリフトケア
※自治体が独自にノーリフトケアの取組を支援している場合がありますので、都道府県各主管部署にお問い合わせください。

令和4年度 厚生労働省委託事業
腰痛を防ぐ 職場の事例集
2023(令和5)年3月

中央労働災害防止協会 健康快適推進部
〒108-0014 東京都港区芝5-35-2
安全衛生総合会館
TEL 03-3452-2517